青雲

別海町立中春別中学校
学 校 だ よ り

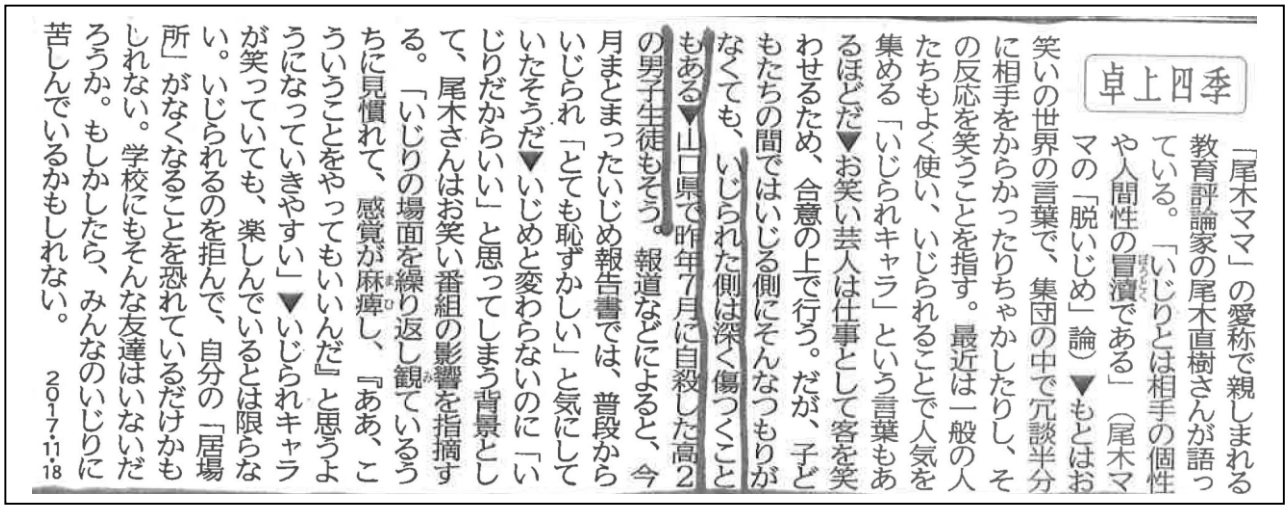
平成 30 年度　第 6 号　　2018-07-24
発行責任者　　校 長　藤 井　　薫

☆「青雲」･･･校歌の２番の歌詞にあります。学徳が高いことのたとえとしても用いられることばです。

■ １学期 ありがとうございました

１学期の中春別中学校は、先日の体育祭での様子を見ていただければわかるように、集中したりまとまったりする場面では、仲間と協力しながら楽しく活動できていると思いますし、落ち着いた学校生活を送れている生徒が全体的に多かったと思います。しかし、全校生徒全員が揃って登校できた日が少ないなど課題が存在するのも事実です。２学期に向けては、このことを踏まえ、全校生徒一人ひとりにとって「安全で安心して楽しく通える中春中」であるように、より一層の学校改善に教職員・全校生徒で取り組んでいきたいと考えております。１学期の皆様方のご支援・ご協力に感謝申し上げます。

□【いじり】も【いじめ】であるという認識で・・・



卓上四季

「尾木ママ」の愛称で親しまれる教育評論家の尾木直樹さんが語っている。「いじりとは相手の個性や人間性の冒瀆（ぼうとく）である」（尾木ママの「脱いじめ」論）▼もとはお笑いの世界の言葉で、集団の中で冗談半分に相手をからかったりちゃかしたりし、その反応を笑うことを指す。最近は一般の人たちもよく使い、いじられることで人気を集める「いじられキャラ」という言葉もあるほどだ▼お笑い芸人は仕事として客を笑わせるため、合意の上で行う。だが、子どもたちの間ではいじる側にそんなつもりがなくても、いじられた側は深く傷つくこともある▼山口県で昨年7月に自殺した高2の男子生徒もそう。報道などによると、今月まとまったいじめ報告書では、普段からいじられ「とても恥ずかしい」と気にしていたそうだ▼いじめと変わらないのに「いじりだからいい」と思ってしまう背景として、尾木さんはお笑い番組の影響を指摘する。「いじりの場面を繰り返し観（み）ているうちに見慣れて、感覚が麻痺（まひ）し、『ああ、こういうことをやってもいいんだ』と思うようになっていきやすい」▼いじられキャラが笑っていても、楽しんでいるとは限らない。いじられるのを拒んで、自分の「居場所」がなくなることを恐れているだけかもしれない。学校にもそんな友達はいないだろうか。もしかしたら、みんなのいじりに苦しんでいるかもしれない。

2017・11・18

▲ 2017 年 11 月 18 日付の北海道新聞朝刊のコラム『卓上四季』です。全国のいじめ発生件数は例年より大幅に増加していますが、「いじり」行為も積極的に「いじめ」として取り上げたことが結果に反映されています。確かに、「いじり」と「いじめ」の境界線はこれまでも曖昧（あいまい）なところがあり、尾木ママこと尾木直樹さんが上で述べている内容も、今の時代を考えると至極妥当な主張です。苦しんでいる人が現実にいる以上「いじり」も「いじめ」とみなすのは正しいとらえ方です。みんなでこのことを意識していきましょう。

■ 体育祭・文化祭の土曜日開催について

中春別中学校は、文化祭については平成 28 年度より、体育祭は平成 30 年度より、日曜日ではなく土曜日開催を行っております。メリットとして、「順延に対応しやすいこと」 や 「生徒の疲労回復を図れること」などがあります。この土曜日開催については、保護者・地域の皆様のご理解があって初めてできることですので、実施に至るまでは PTA 役員会での協議を経て、PTA 総会や各種通信等で何度も周知しております。まだまだ至らない点もあるかと存じますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。